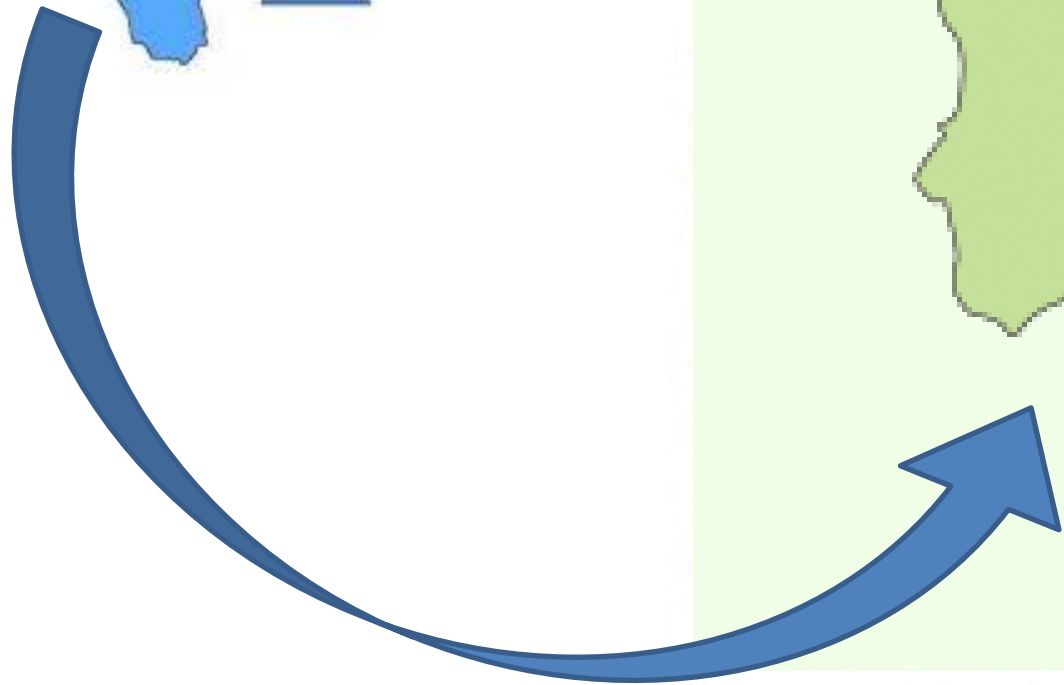


山梨県峡南地域における 自治体間連携・共同事業の事例

～地域包括ケアシステム構築のための新規施策の事業化を通して～

山梨県身延町長 望月 幹也

平成30年9月27日 第32次地方制度調査会専門小委員会にて





峡南地域の高齢化等の状況

平成30年度山梨県高齢者福祉基礎調査資料編のデータ(平成30年4月1日現在)を元に作成

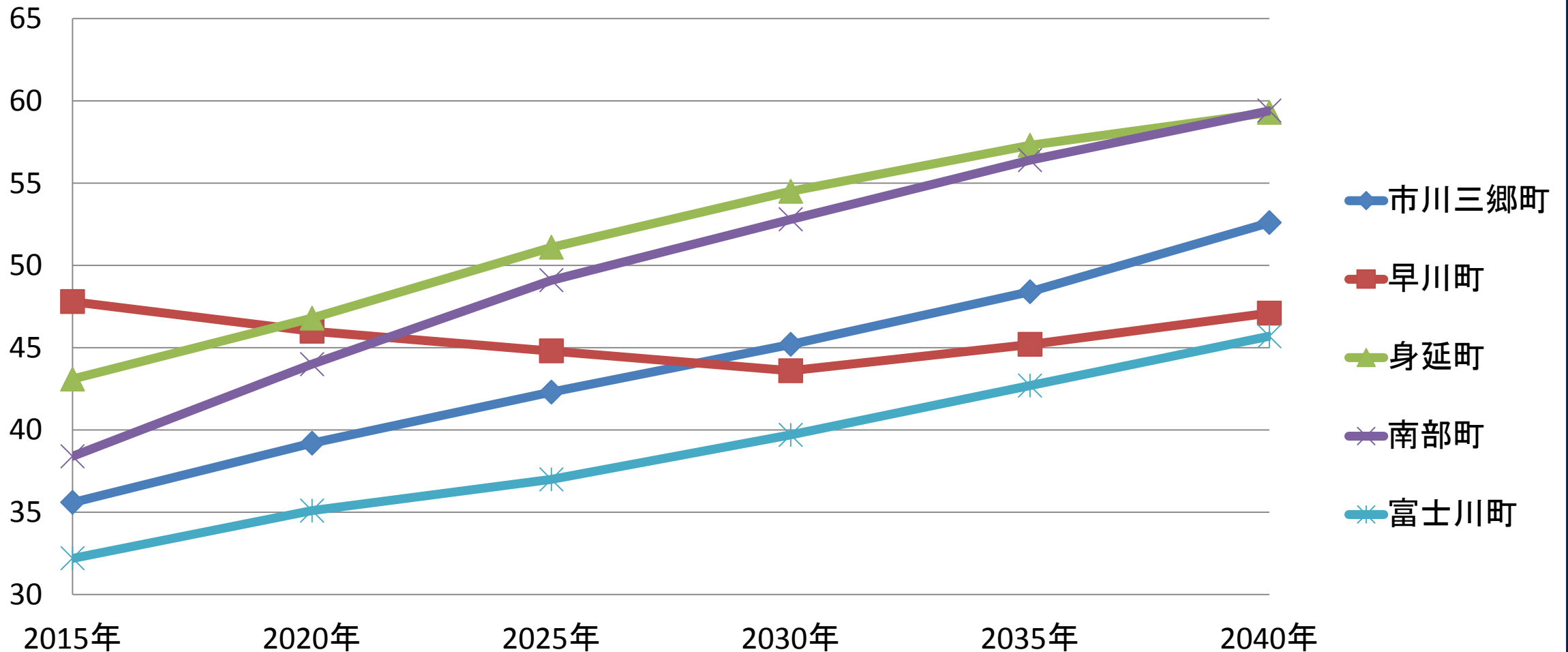
	総人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化等の状況				
			高齢化率 (県内27市町村中の順位)		総人口に占める後期高齢者数の割合	全高齢者数に占める独居高齢者数の割合	全高齢者数に占める独居後期高齢者数の割合
市川三郷町	16,018	5,755	35.9%	(8位)	20.3%	24.5%	17.5%
早川町	1,076	507	47.1%	(2位)	32.3%	46.4%	35.1%
身延町	12,139	5,392	44.4%	(4位)	27.1%	28.7%	21.2%
南部町	7,903	3,210	40.6%	(5位)	22.5%	18.6%	11.7%
富士川町	15,392	5,030	32.7%	(12位)	18.2%	23.9%	16.8%
峡南 計	52,528	19,894	37.9%		21.8%	25.1%	17.8%
山梨県全体	834,330	245,093	29.4%		15.2%	22.5%	13.9%

高齢化が進む峡南地域

国立社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」のデータを元に作成



峡南地域の町別高齢化率の推移(今後の見込)



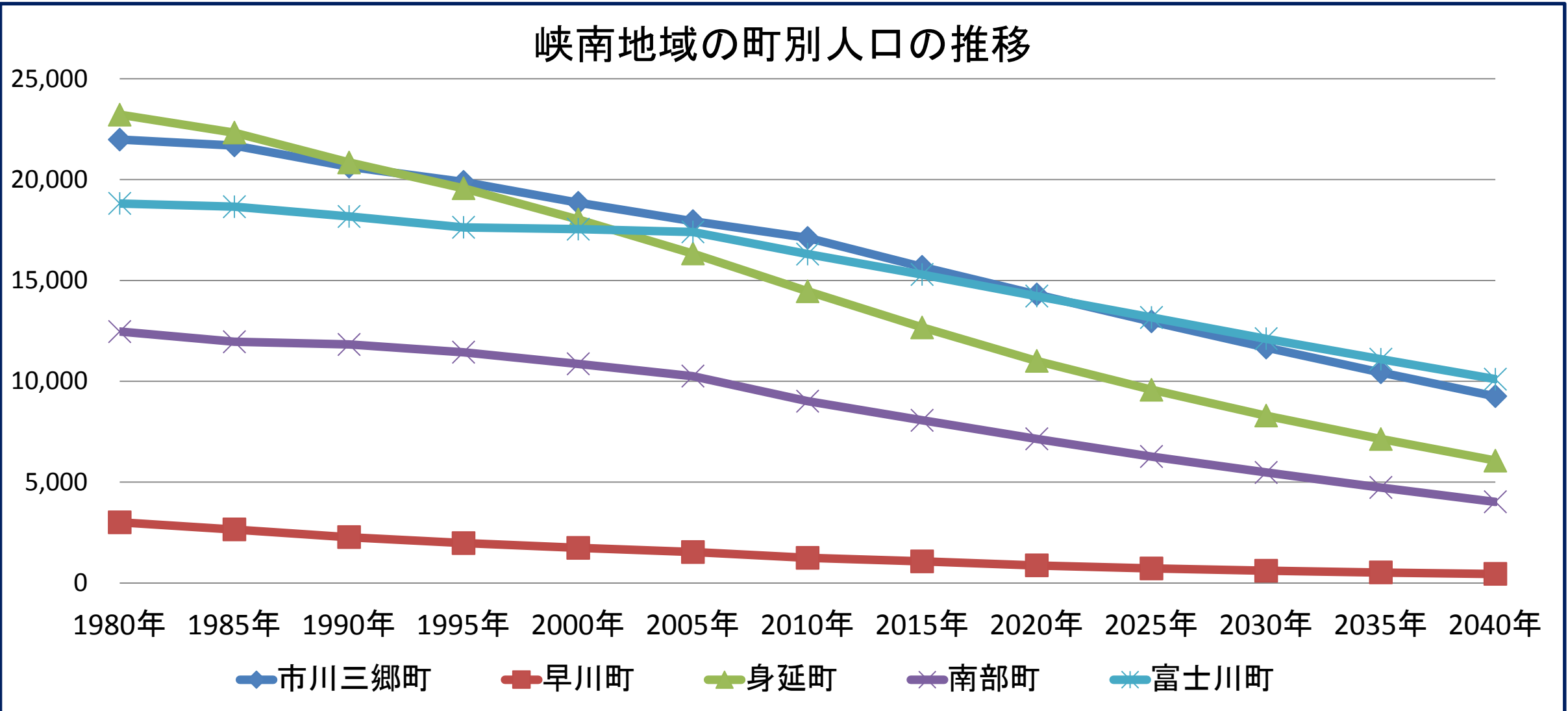
人口減少が進む峡南地域



1980年～2015年の値:「山梨県統計データバンク」

2020年～2040年の値:国立社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

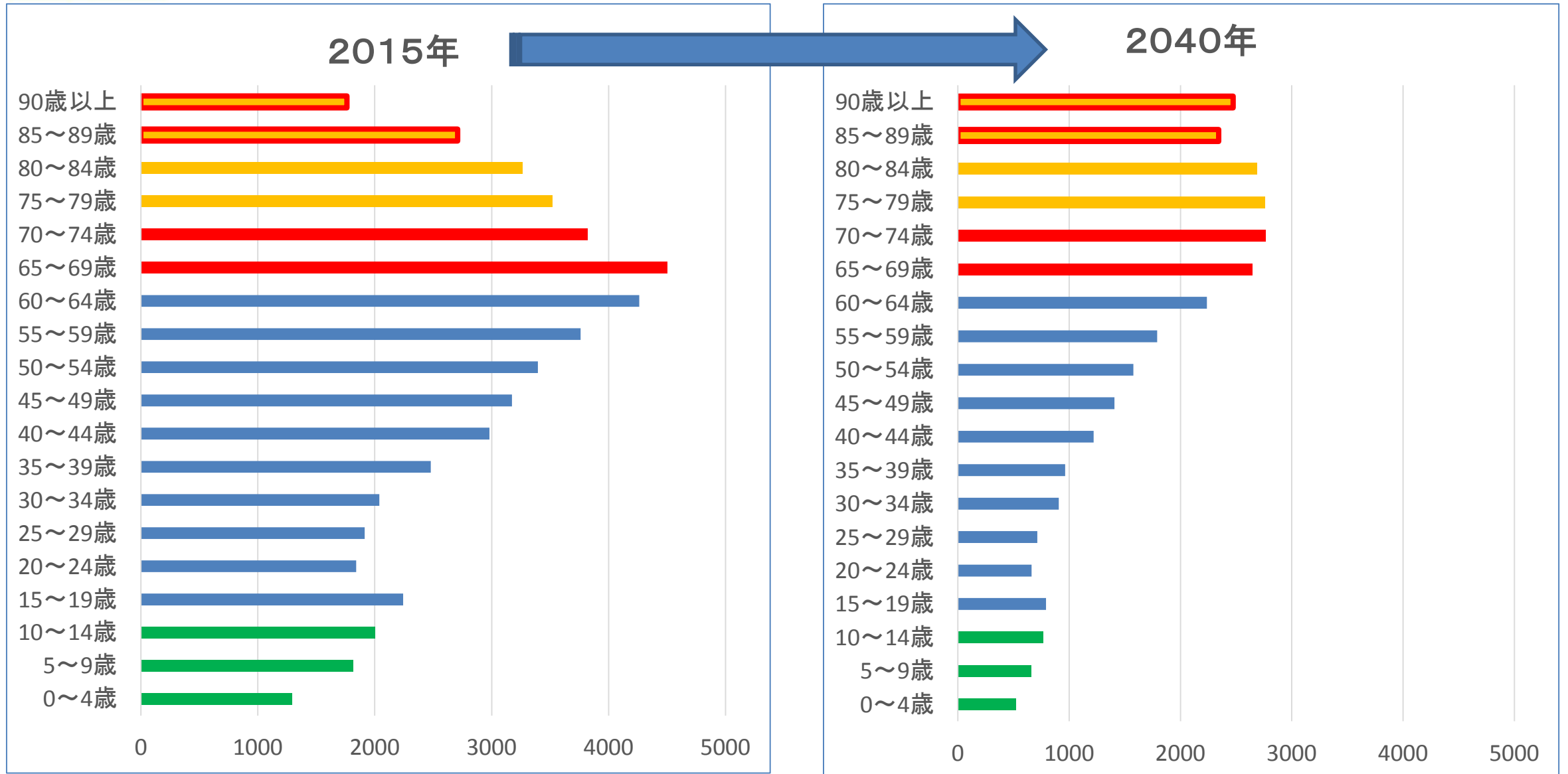
峡南地域の町別人口の推移





峡南地域(5町)5歳階級別人口

(国立社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」のデータを元に作成)

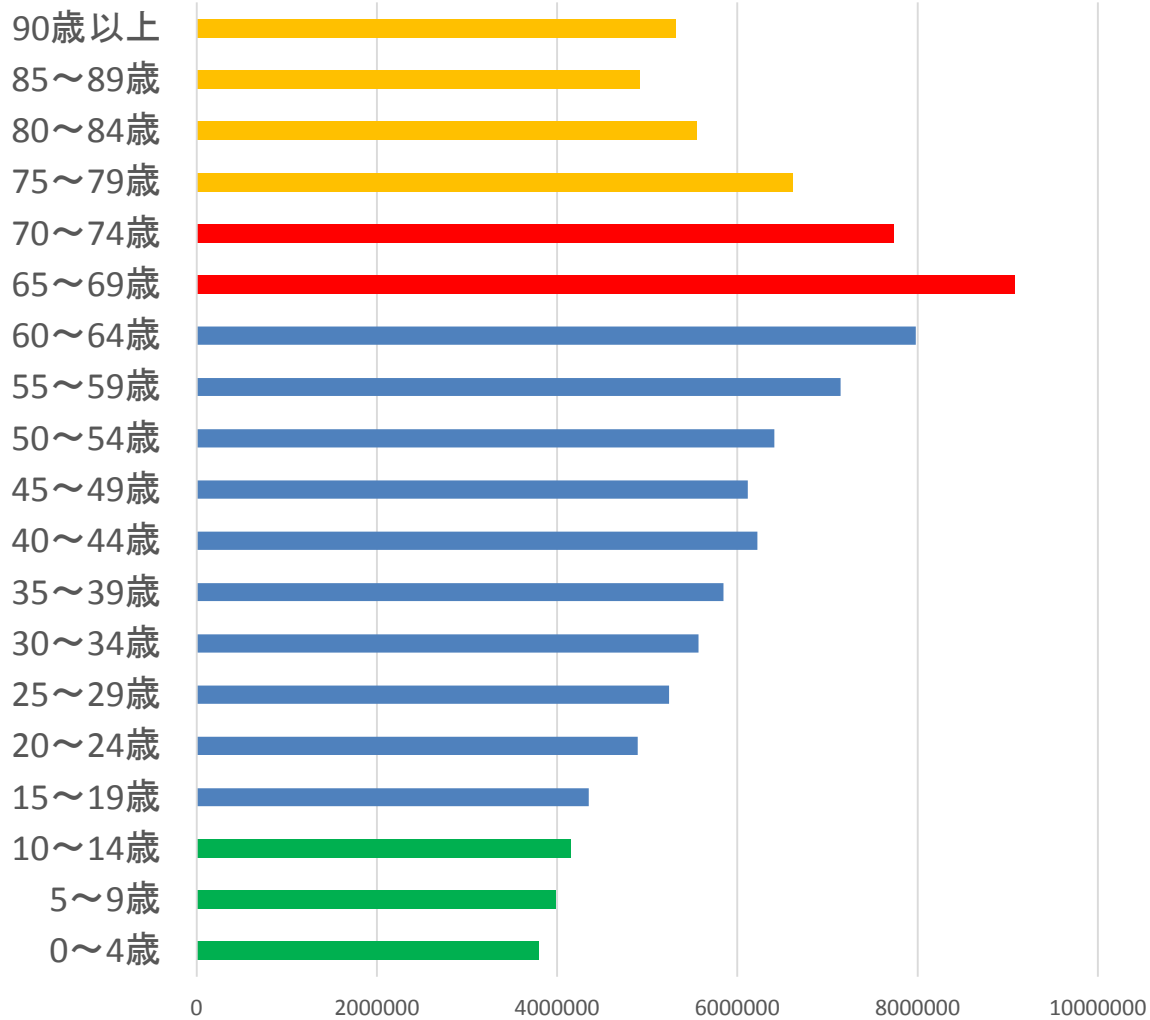




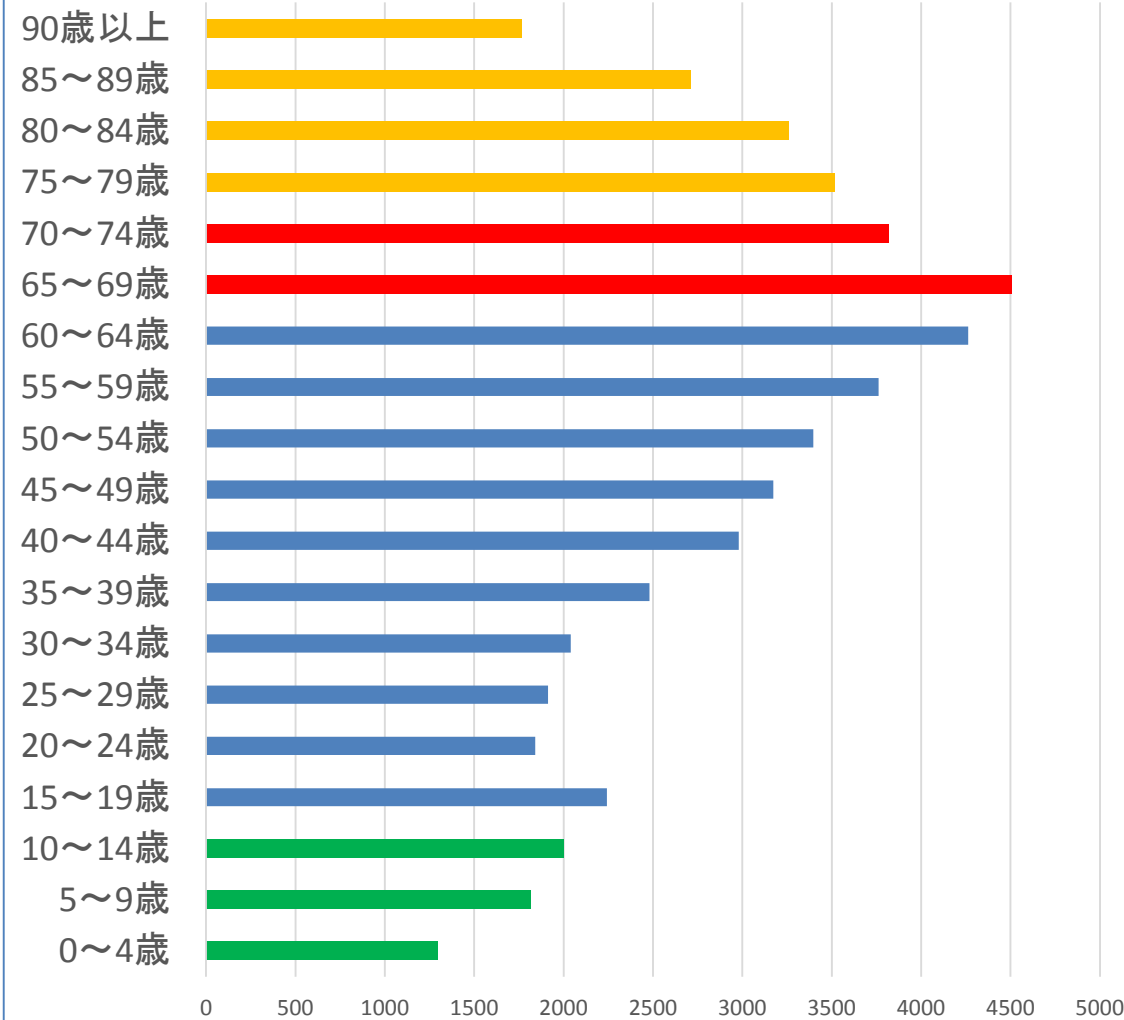
日本の2040年 ≡ 峡南地域の今

国立社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」のデータを元に作成

2040年(日本)

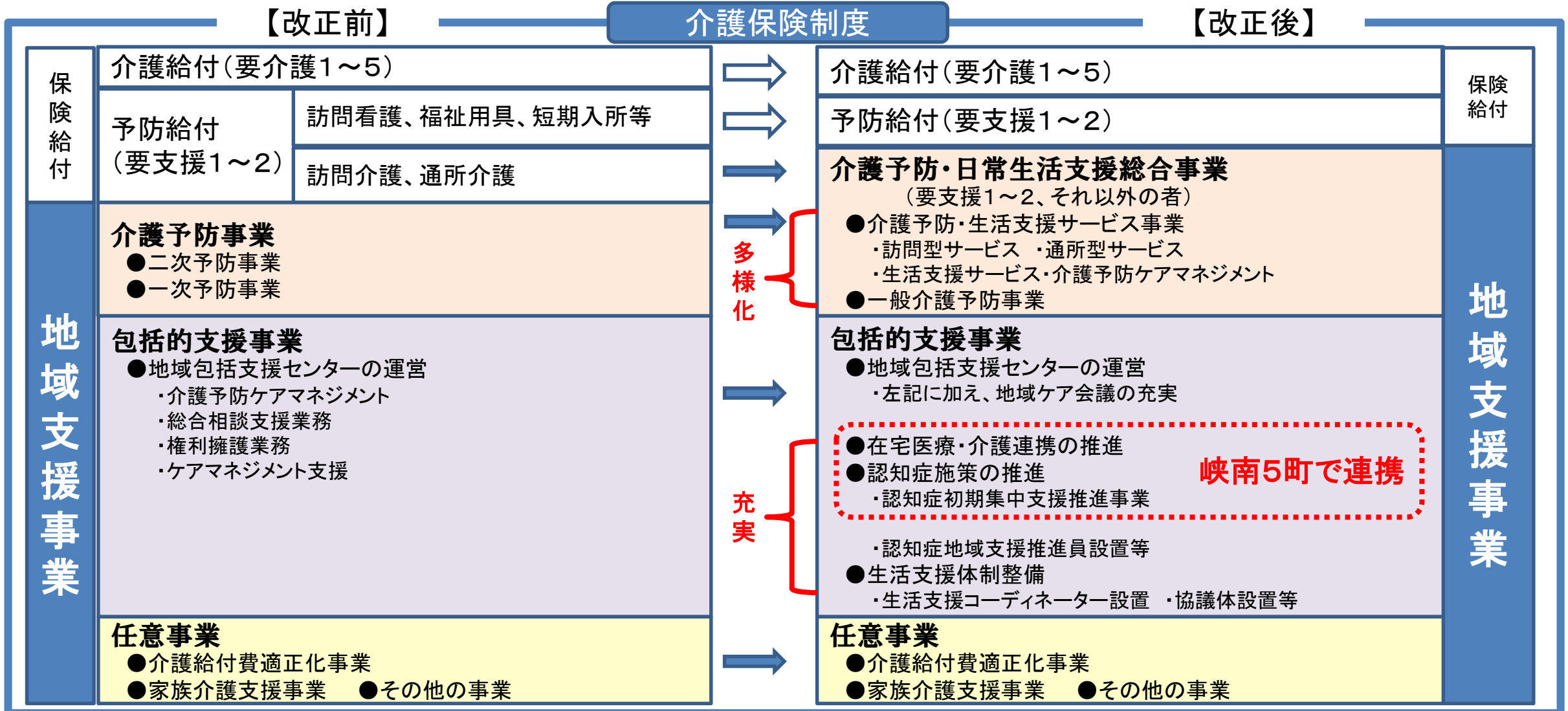


2015年(峡南)



【地域支援事業】

被保険者が要介護・要支援状態となることを予防するとともに、要介護状態となった場合でも、可能な限り地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的に市町村が行うもの。



峡南5町には高いハードル：地域支援事業実施要綱

在宅医療・介護連携推進事業

実施項目

- 1 地域の医療・介護の資源の把握
- 2 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- 3 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- 4 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 5 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- 6 医療・介護関係者の研修
- 7 地域住民への普及啓発
- 8 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携



ボリュームのある新規事業だが人員増は容易でない

認知症初期集中支援推進事業

認知症初期集中支援チームの設置

【チームの編成】

チームは、次の専門職3名以上で編成する。

- ①一定の条件を満たす認知症の専門医1名
- ②保健師等の医療系職員1名以上
- ③介護福祉士等の介護系職員1名以上



医療や介護の専門職の確保は容易でない



峡南地区5町の連携・共同事業として「一部事務組合立飯富病院」へ業務委託

峡南在宅医療支援センター

一部事務組合立「飯富病院」内に設置。
在宅医療提供のための調整支援機関として位置付け。

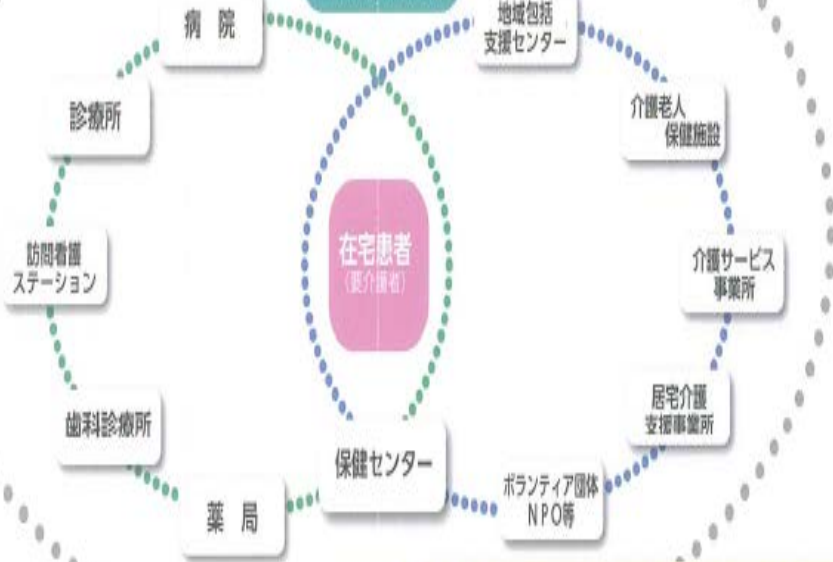
峡南在宅医療支援ネットワーク

医療のネットワーク

福祉のネットワーク

峡南在宅医療支援センター

・相談応答、連絡調整
・医療資源の情報提供



在宅医療ネットワークとは、在宅患者の医療の充実を図るため、在宅医療支援センターが中心となって医療、福祉の各ネットワークが有機的に連携し、患者の症状等に応じた切れ目のない支援を行っていくためのネットワークである。

【センターの具体的な業務：H27当時】

- 在宅医療に関する相談対応
- 多職種連携・協働体制の構築に向けたコーディネート(在宅ドクターネットの運用を含む)
- 在宅患者情報共有システムの運用管理



【峡南5町による業務委託】

- 人員体制の充実

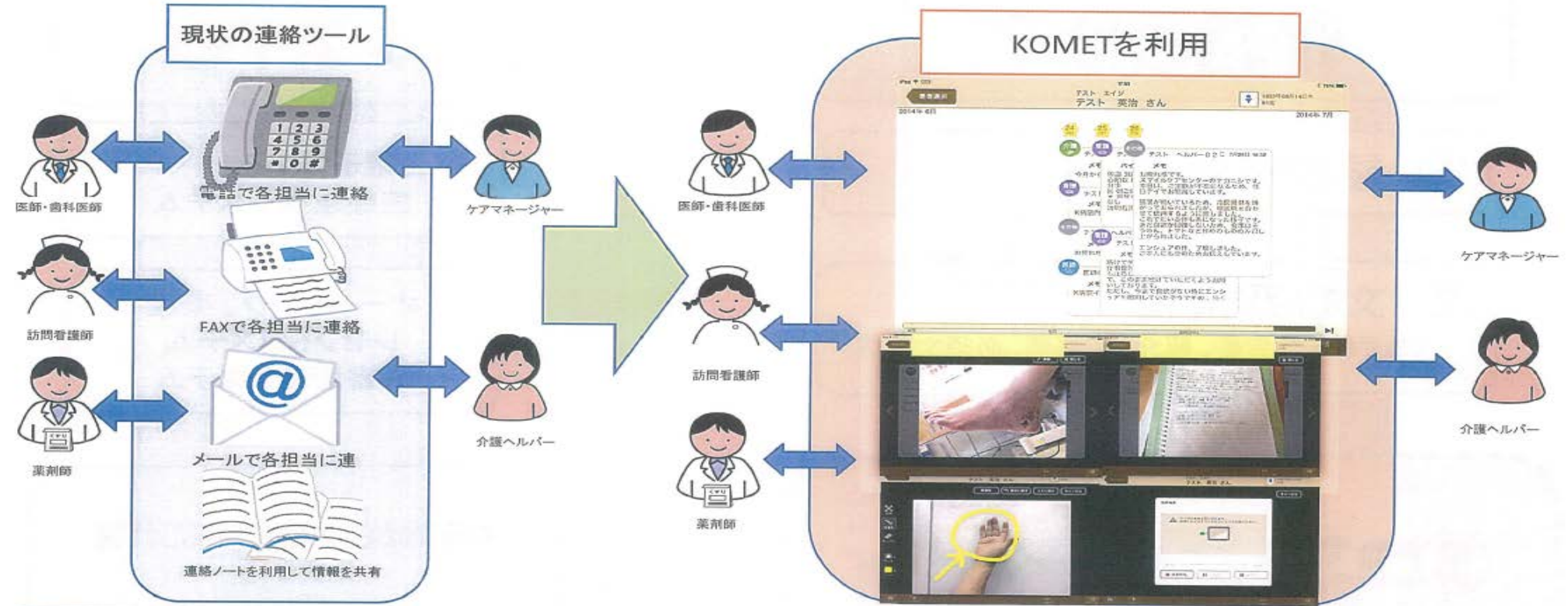
委託前	委託後
センター長(医師1名)	センター長(医師1名)
社会福祉士(1名)	社会福祉士(1名)
	保健師(1名)

- 業務内容(機能)の充実

在宅医療・介護連携推進事業(従前業務含む)
認知症初期集中支援チームの設置・運営

峡南在宅患者情報共有システム (KOMET) Kyonan-Online-network-for-MEdical-Teamwork

KOMETとは、多職種連携のコミュニケーションツール



- ・個別の連絡対応になるため、時間がかかる
- ・連絡手段が複数あるため、手間がかかる (電話と連絡ノート、FAXとメールなど)
- ・連絡ノートは在宅患者宅へ行かないと確認できない

- ・在宅患者のタイムラインに書き込むことで、各職種で情報共有ができる
- ・在宅患者単位で多職種連携チームが作成可能
- ・画像、動画、音声ファイルを添付できる (患者本人・記録等)
- ・履歴も時間のある時に簡単に確認でき、読み返すことができる

まとめ

- 峡南地域は、既に人口減少、高齢化が顕著となっており、今後もこの傾向が進んでいく。（「支え手」は減少）
- そのような峡南地域にあって、「医療」と「介護」は、高齢者の生活を支えるための資源として、今後益々重要となる。
- 一自治体が投入できる資源（人材、財源）にも限りがある。
- 「医療」「介護」は、一つの自治体の取組で完結するものではない。

自治体間連携の取り組み

経費節減、事業の効率的、効果的な展開